

授業 科目名	【G】	体育実技Ⅲ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】1	
	【H】	体育実技Ⅲ			【H】3		【H】1	
	【I】	体育実技Ⅲ			【I】3		【I】1	
科目区分	保健体育科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	「勝敗」に留まらない、体育・スポーツの価値、魅力の再発見 ～ 好き／嫌い、得意／不得意な人もみんなで楽しもう！～				担当者	青柳 秀幸		
授業概要	概要	<p>受講者自身のこれまでの体育・スポーツ観や指導観を振り返りつつ、以下の恩恵や価値について実技の実践を通じて学び、享受、展開を試みる。受講に際して体育・スポーツの好き／嫌い、得意／不得意は一切問わず、全員での協力により充実した内容を目指す。</p> <p>2015年11月17日に開催された第38回UNESCO(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization: 国連教育科学文化機関)総会において、「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」(International Charter of Physical Education, Physical Activity and Sport)が約20年ぶりに改訂・刷新された。この国際憲章には、「体育・身体活動・スポーツは、健康、社会的・経済的発展、若者のエンパワメント、和解、平和など、さまざまな個人的及び社会的恩恵をもたらすこと」、「質の高い体育・身体活動・スポーツの提供は、フェアプレー、平等、誠実、卓越、責任、勇気、チームワーク、規則や法律の順守、自身や他者に対する尊重、共同体意識、連帯並びに楽しさや喜びなどの価値を促進するために要する潜在的な能力を発揮するために欠かせない」と記されている。</p>						
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「競技」や「勝敗」とは異なる、時にはそれらを超える「体育・身体活動・スポーツの恩恵や価値」の存在について理解している ・人々がスポーツに気軽に・楽しく触れるためのアプローチ方法を、活動内容の選択・立案、ルールの工夫・緩和、チームワークの観点から模索・検討し、実践することができる ・自身と他者の身体やスポーツ観の違いを理解した上で、自身や他者が「体育・身体活動・スポーツの恩恵や価値」を享受するために必要と考えられる事柄について、経験に基づきながら自身の言葉で表現することができる 						
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ法コースの学生であること ・他者の学びの時間・環境を尊重すること ・スポーツウェア、室内シューズ、タオルを持参すること ・2年生の履修を認める。(通常は3年生開講科目のため、3年生以上の履修を優先とする。) 							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【○】	PBL	【○】	実践・実技
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	○ (やや当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	◎ (よく当てはまる)						
他科目との 関連性	・担当教員が別途開講している「現代社会とスポーツ」や各種ゼミナールで学ぶ人文社会学的な観点や知見を活用する							
教科書	特になし							
参考書	日本学術会議, 健康・生活科学委員会, 健康・スポーツ科学分科会 (2017) 記録: ユネスコ「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」の監訳及びシンポジウムの開催. https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/2-20170922.pdf (2025年3月1日時点)							
評価方法	①授業時に課す課題・レポート(50%)、②学習意欲・態度・協調性(50%)の2つの観点から総合的に評価する。							
フィードバック 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が共有できる形で授業中に直接フィードバックする ・評価基準に則って授業課題を評価し、適宜返却・フィードバックする ・授業課題の内容の一部を授業で紹介し、教員が講評する 							
評価基準	授業課題に的確に応え、主体的かつ意欲的に実技を実践できた者はその程度に応じて「S」または「A」、授業内容を理解し実技を実践できた者はその程度に応じて「B」または「C」とする。授業内容の理解や実技の実践が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、出席要件を満たさない場合や最低限の評価に必要な課題の未提出など、評価不能な場合は「F」とする。 ※運動技能の優劣、得意・不得意は問わない。							

授 業 科目名	【G】	体育実技Ⅲ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】1
	【H】	体育実技Ⅲ	その他参照		【H】3		【H】1
科目名	【I】	体育実技Ⅲ			【I】3		【I】1
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス：授業の目的、内容、評価方法の確認。教員・受講者との交流を通じて、自身のスポーツ観の相対化を試みる 予習： これまでの体育・スポーツ観や指導観を振り返る。 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
2	運動遊び：体験編。日本スポーツ協会（JSP0）：アクティブ・チャイルド・プログラムを中心に～ 予習： 日本スポーツ協会の理念や、ACPについて調べる 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
3	ベースボール型(1)基礎、ルール緩和編 予習： ベースボール型ゲームの特徴について調べる□ 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
4	ベースボール型(2)ルール緩和、応用編 予習： オリンピック競技・種目とは異なるネット型ゲームについて調べる□ 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
5	ベースボール型(3)ルール緩和、応用編 予習： 諸外国におけるネット型ゲームの展開方法について調べる□ 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
6	ベースボール型(4)アプローチ方法の検討、実践編 予習： 学習内容に基づいて、より楽しく／勝利するための対策を練る 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
7	ネット型(1)基礎、ルール緩和編 予習： ネット型ゲームの特徴について調べる 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
8	ネット型(2)ルール緩和、応用編 予習： オリンピック競技・種目とは異なるネット型ゲームについて調べる 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
9	ネット型(3)ルール緩和、応用編 予習： 諸外国におけるネット型ゲームの展開方法について調べる 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
10	ネット型(4)アプローチ方法の検討、実践編 予習： 学習内容に基づいて、より楽しく／勝利するための対策を練る 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
11	ゴール型(1)基礎、ルール緩和編 予習： ゴール型ゲームの特徴について調べる□ 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
12	ゴール型(2)ルール緩和、応用編 予習： オリンピック競技・種目とは異なるネット型ゲームについて調べる□ 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
13	ゴール型(3)ルール緩和、応用編 予習： 諸外国におけるゴール型ゲームの展開方法について調べる 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
14	ゴール型(4)アプローチ方法の検討、実践編 予習： 学習内容に基づいて、より楽しく／勝利するための対策を練る 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
15	ストレッチ&ヨガ。授業全体のまとめ 予習： 受講前後の思考や観点の変化の有無、視野の広がりについて考える 復習： 授業内容の省察および授業内で提示された課題への取り組み						
その他	予習および復習は、それぞれ90分程度を目安にしてください。それらの学びと授業時間内での学びを総合することで、到達目標の達成が見込めます。 授業では、スポーツパーソンシップを意識した積極的な参加・発言・協力を歓迎します。 ※G・H・カリ：法【履修不可】 スポ【必修】 情【履修不可】						